全国いきいき公衆衛生の会サマーセミナー

いろんな『協働』、もっと『協働』

～つながって、より効果的な公衆衛生活動へ～

8月9日(1日目) 開場 12:30～

13:00～13:15 開会セレモニー(司会進行 いきいき公衆衛生の会 世話人 前田 秀雄)

(ご挨拶) 福岡県保健医療介護部 医監 佐野 正

13:15～15:45 分科会 1～6(7) 事例から学ぼう(分科会の説明・進行 世話人 藤内 修二)

～休憩15 分～

16:00～17:00 基調講演(座長 現地世話人 藤田 利枝)
「行政施策の健康影響予測評価 ― Health Impact Assessment の基礎と実践」
久留米大学医学部 環境医学講座 石竹 達也 主任教授

17:00～17:10 1 日目閉会(進行 世話人 前田 秀雄)

片付け・翌日準備

18:00～ 懇親会 (場所:GALERIE ANNE ANNEX｜福岡 セレクトショップ 株式会社アンネ松本が入っている RM ビル3F のレンタルイベントホール 久留米シティプラザから徒歩 3 分)

8月10日(2日目) 会場 8:50～

9:15～11:15 ワールドカフェ 2日間の学びを語り合おう(進行 世話人 家入 香代)

～休憩10分～

11:25～12:25 全体討議

12:25～12:40 クロージング(進行 前田 秀雄)

～分科会　抄録集～

＊分科会5は、最終的な参加人数次第で開設します

1	【大会議室-①】 産学官連携による子どもの健康づくりの取組み（古賀市） ちょっと（かなり？）行き詰まってる小児の肥満対策～先に進めるには～（佐賀県） （発表者：福岡県古賀市　保健師　笹野　佐妃、佐賀県　鳥栖保健福祉事務所　医師　本田　成美 世話人：藤内　修二）

古賀市では、小学生の肥満傾向児の増加や中学生女子の痩身傾向児が県や全国より出現率が高いことが課題となっています。この時期の生活習慣は、将来の健康に大きな影響を及ぼしますが、子どもたちの健康は、保護者の健康意識や生活習慣に大きく影響されます。そのため、家族で健康づくりに取り組めるような仕組みづくりが必要です。今まで行政が取り組んできたことをつないで、持続可能な仕組みを築いていくにはどうしたらいいでしょうか。行政だけでなく、多くの機関とつながり、共に1つの事業を作り上げてきた事例をご紹介します。（古賀市）

鳥栖三養基の糖尿病対策会議で、成人の肥満だけでなく、子どもの肥満も増えているのではないか？という意見がありました。それを契機に、管内の養護教諭、栄養教諭と共に、学校現場で求められているものを議論し、その中でまず小学校で医師による健康講話を実施しました。

管内・国内のみならず、世界的にも問題となっている子どもの肥満に対して、どのように何を行えば効果があるのか。そして、難しい問題ながら、地域においてもその課題を共有し、他機関と協働していくためには、どのようなアプローチを行っていけば良いのか。未来ある子ども達の健康に対してのアプローチを考えていくうえで、皆さんのお知恵を貸してください。（佐賀県）

2	【大会議室-②】糖尿病・腎専門医の少ない地域での腎症重症化予防システムの構築 （発表者：大分県北部保健所　保健師　鳴海　有紀子　世話人：櫃本　真聿）

大分県の人工透析患者数は全国 5 番目に多く、北部圏域でも新規透析患者のうち糖尿病等の生活習慣病有病者が約 80%を占めており、糖尿病性腎症重症化予防対策の推進が喫緊課題です。当県では、大分大学医学部附属病院が、糖尿病・腎臓各専門医による診断・処方調整、看護師・管理栄養士等と連携した指導等を行う糖尿病性腎症重症化予防専門外来を R2 年度に開設しました。しかし、北部圏域から距離が離れているため、北部圏域住民が利用しやすい圏域内完結型の糖尿病性腎症重症化予防システム構築を目指し、管内独自の専門外来設置等も含めた取組を行いましたのでご紹介します。

3	【中会議室1】生活困窮のある職業ドライバー支援：産業保健と福祉の境界事例を考える （発表者：産業医科大学医学部公衆衛生　医師　大河原　眞　世話人：尾島　俊之）

嘱託産業医として、日々いろいろな事例に対応しています。この度、地域保健・福祉分野の皆様と共有したい事例に遭遇しました。事例：69 歳男性。身寄りは無く、勤務するタクシー会社の寮に永年住んでいる。定期健康診断で血圧 204/112 mmHg。医療機関の受診勧奨を行ったところ、「お金が無い」との返答。以前に事業で失敗し、金融機関と勤務するタクシー会社への借金の月々の返済を行うと、生活費はほとんど残らない。勤務日数が少なく、社会保険は未加入。国民健康保険の加入手続きを 10 年以上行っておらず、受給資格がない。給料は歩合制であり、運転を止めると収入が無くなる・・・。

あなたならどこから手を付けますか？見落とされがちな、中小企業で働く生活困窮者へのアプローチについて、一緒に考えてみませんか？

4	【中会議室2】こんな時代だから必要な近助(互助)、そしてまず自助への促し (熊本県菊池市　生活支援コーディネーター　日置　治尊、 社会福祉士　山口　真琴　世話人:大澤絵里)

菊池市のある地域において一人暮らし高齢者が、死亡発見されました。ちょうどその地域で、見守り体制の構築の必要性を考えておられる方がいました。そして、その出来事により、地域での見守り活動がクローズアップされることになりました。しかし、“住民全体を見守りたいという熱い思いの発起人”と“あまり大変な見守り活動はしたくない住民”との温度差が…。

様々な思いが交錯する中、近助(互助)としての見守り体制作りに、どのように寄り添い、関わり、支援ができるか考えました。また、自助としてまず“どう生きたいか”を自分事として考えていく環境作りをどう提案していくか、ぜひ皆さんと検討していきたいです。

5	【中会議室3】明日からお盆休みの金曜日夕方、保健所の電話が鳴った・・・「滝で遊んだ高校生グループ全員に胃腸炎症状」。これって健康危機？(発表者:熊本県健康福祉部健康危機管理課医師　劔　陽子、獣医師　松本　辰哉　世話人:中瀬　克己)

単身赴任者が多い熊本の某地域の保健所。明日からお盆休みという金曜日の夕方。すでに保健所に残っている職員の数はいつもより少ない。あと2時間で終業だ！熊本市内の家に帰るぞ～～と思っていたら、電話が鳴った。「滝に遊びに行った高校生グループの7人全員に胃腸炎症状が出ています。私はそのうちの一人の保護者です。症状は軽いのですが、気になって電話しました。一緒に食事はしていないし、皆で一緒に食べたのはポテトチップスくらいです」。これは健康危機なのか？上司や県庁本課に報告すべきなのか？そもそもどこの課が担当すべき事象なのか？明日から平和にお盆を過ごせるのか？？あなたならどんな手順で対応しますか？

6	【展示室-①】事業所等との連携による外国出生肺結核患者の発病予防・早期発見・治療継続に向けた取組 (発表者:大分県北部保健所　保健師　伊藤　彩夏　世話人:前田　秀雄)

A 県の結核罹患率は全国と比較すると例年高い値で推移しています(R6 速報値 10.7)。B 保健所管内は県の罹患率よりさらに高い値となっており、近年、外国出生肺結核患者が多くなっています。同管内の C 市は事業所で受け入れる外国人の割合が年々増加しており、中でも結核高負荷国からの就労者が多い状況であり、就労後に結核が発見されるケースが増加しています。このような中、管内の外国人労働者の支援においては、言語の壁、就労と確実な治療の両立など、様々な課題があったため、昨年度から、受入事業所・監理団体・登録支援機関等との連携を重視した支援に取り組んできました。今後も一層、外国出生者の入国増加が予想されるにあたり、その結核対策が重要性を増していく中、今回、事業所等との連携による治療完遂に向けた取組について紹介します。

7	【展示室-②】外国人妊産婦への支援:日本で生活していくために必要な地域との繋がりを考えよう (発表者:久留米市子ども未来部　保健師　東内　遥奈　世話人:家入　香代)

久留米市でも外国人の妊産婦対応が増えてきていて、日々、このような事例を抱えています。事例:20 歳代外国籍、学生、妊娠 25 週。中絶希望していたが費用工面できずに妊娠継続。経過中に胎児に疾患が判明、出生後も児のケアが必要など、コミュニケーションに専門用語が必要な場面も多く、サポートが難しい。これからも日本での生活を望んでいる、困難を抱えた外国人支援について、言葉や文化の壁を越えた相互理解の工夫、地域のネットワークの活用や構築について皆さんの経験や意見を交換しましょう。